

## 第2回 藤沢市立学校通学区域見直し【南部】ワークショップ 開催結果について

- ・開催日時:2024年9月6日(金)午後1時~午後3時
- ・開催場所:藤沢市民会館 第1展示集会ホール
- ・ファシリテーター:徳田 太郎氏(NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー)
- ・ワークショップ参加者:44人 見学者:7人 運営スタッフ:15人 合計66人

### ○当日配付資料

- ・別添のとおり

### 議事要旨

#### 1. 開会

- ・「子どもの学びで大切にしたいこと」を見直す。  
前回のワークショップの成果物を見ながらグループで話し合い、必要に応じて要素を追加した。
- ・「学校規模・通学距離等の観点で懸念されること」を見直す。  
前回のワークショップの成果物を見ながらグループで話し合い、必要に応じて要素を追加した。
- ・「区域見直しのポイント」を考える。  
グループで話し合い、特に重要な追加ポイントを抽出した。
- ・「区域見直しのポイント」に重みづけを行う。  
抽出された特に重要な追加ポイントに、全員で投票を行った。  
各人「3点」「2点」「1点」の持ち点で投票した結果は、別紙2のとおり。

#### 2. 「区域見直し案」の作成方法を知る。

資料に沿って事務局から説明。

### 質疑

(質問)人口推計は現在の児童数の伸び率からの実数ベースで作成されているが、マンションができることや、高齢者が住まなくなったり、現在増えている理由である SST に多くの住宅ができたことで若い世代が増えていることなどの、都市計画や環境の変化に対する考慮がどのくらい推計値に入っているのか知りたい。

(回答) 毎年教育委員会では、児童生徒数推計をしている。現在生まれている0歳から5歳の子どもに対しては実数で推計している。マンションは建設が明らかになっていれば、完成時期と世帯数によって、増加する児童数を、過去の統計から推計している。私立学校へ入学する児童の学校別による進学率なども含め、推計している。もし将来的に大きな開発が出てきたら、出てきたタイミングで追加して推計を出している。

(質問) その数値は受け身的な推計となるが、藤沢市として、例えば若い世代の住民を増やしたいという発想が都市計画には含まれていないのか。

(回答) 藤沢市としては近い未来までの実数ベースの推計値には藤沢市の都市計画は反映していない。2029年以降は、市全体の将来人口推計を反映させて推計している。その将来人口推計に市の都市計画や若い世代が増えてほしいという意向が反映されているかはわからない。→(後日追記 将来人口推計では、これまでの区画整理事業や民間の宅地開発・マンション建設の動向を踏まえて趨勢人口を推計するとともに、今後想定される各種開発による人口増を組み込み、推計を行ったと説明されています。) 市全体の地区の人口の見込みも反映させたかたちとなっている。

(質問) 辻堂小、鶴洋小、鶴沼小は学区が密接していて、学区を変えてもどの小学校も増えて過大規模になってしまうのではないかと。そこは新林小や片瀬小に学区を移していくイメージか。あるいは、辻堂小と鶴洋小については、学校を建て替える計画があると思うので、教室の数が増えれば、現状の問題は解消されると思うが、資料に盛り込まれていないのはなぜか。

(回答) 辻堂小、鶴洋小、鶴沼小は密接しており、過大規模解消のためには現状の学区よりも外へ児童を移していくことになると思う。そのため、南部17校の広範囲で学区を検討していく。学区をどう変えるかは、今後考えていく。過大規模校というのは教育環境に良くないということで学級数を減らす検討をしている。39学級あると、グラウンドや体育館も分割して使用している。敷地を大きくしてグラウンドを2~3面取れるところもないし、建て替えて大きく造ればいいものではない。この計画では31学級以上の過大規模校にならないようにして、教育環境を整えることである。

### 3. 第3回ワークショップのお知らせ

事務局から第3回【南部】ワークショップの日程について、2024年12月17日(火)午後1時から藤沢市民会館第1展示集会ホールで開催する旨を説明。  
また、開催日数日前に改めて事務局から出欠の連絡をする旨を説明。

以上